

令和7年11月6日付【水道産業新聞】

関東支部<“グラレコ”で議論見える化>

「若手技術者座談会」を初開催

「若手技術者座談会」を初開催

水コン協 関東支部 “グラレコ”で議論見える化

全国上下水道コンサルタント協会関東支部はさきじる、協会会議室で第1回若手技術者座談会を開いた。会員各社から会場とウェブ合わせて20人が参加。業務と職場環境について意見交換した。



グループディスカッションの様子

若手技術者座談会は、関東支部の6つ目の委員会として今年度新たに発足した「青年共創委員会」の主催による初めての企画。委員会では、活動を通じて次世代を担う若手協会員と「共」により良い業界の未来を「創」ることを目指し、若手の成長と活躍の芽を育み、支援する取り組みを推進していくとしている。

座談会には、入社2~5年目の技術系社員が参加。4人1組のグループに分かれ、「業務履歴について」「職場環境について」「他社に聞いてみたい事」の3つのテーマでディスカッションした。最後に、各グループが発表した内容を、グラフィックレコーダーのゆんさんが、文字やイラストを使って図

各グループの発表では、業務履行について、「11月から3月に集中している納期が年間を通じて平準化されるとよい」「猛暑を考慮した工期設定をしてほしい」などの課題が挙げられ、「一人で打ち合わせに行つた時に、お客様の方が詳しい場合もあり、質問や対応に困る事がある」という声も出していた。

職場環境については、「年齢が離れた上司に何度も質問をすると、気が兼ねてしまう。難しい仕事を相談しやすい環境がほしい」「入社3年目になると、後輩の指導もする立場になり、自分の抱える業務との両立を図

るのが難しい」などの意見があった。

他社の話では、「趣味などプライベートでの挑戦に対し、チャレンジ表彰制度がある」「社員の健康管理のためアップルウォッチが支給され、成績に応じた手当もある」といった、特色のある取り組みも話題になつた。

発表に対して委員からは、「自分が若手だったころと比べ、明らかに業

務の内容が難しくなり、社内の年齢構成もバランスが崩れています。それに加え、ちょうどコロナ禍に入社した世代で、リモートワークが導入されたりともあり、上司に相談しにくいと感じるのだと思うが、若手の「成長したい」という意欲に上司も応えてくれると思うので、気兼ねをせずに質問をしてほしい」と話した。